

研究主題 「児童の意欲を高め、社会生活と自分とのかかわりを考える力を

育成する学習指導の工夫－自分の考えを深める話し合い活動を通して－」

東京都教職員研修センター研修部教育経営課

江東区立第三大島小学校 教諭 小坂美智子

I 研究のねらい

小学校社会科は、社会生活を広い視野からとらえ、総合的に理解することを通して、公民的資質の基礎を養うことを究極的なねらいとしている教科である。

社会生活についての理解とは、人々が相互に様々なかかわりをもちながら生活を営んでいる理解だけでなく、自らが社会に適応し地域社会や国家の発展に貢献しようとする態度を育てることを目指すものである。

東京都教育委員会「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果分析（平成17年6月、平成18年6月）によると、学習内容を踏まえて児童が自ら学ぶ意欲を高めていくことや、資料から読み取った事実を基に考え、資料を活用して適切に思考・判断する力が十分でないことが課題として明らかになった。それらの背景には次のようなことが考えられる。

- ・ 学習内容が空間的・時間的に広がるに伴い、児童が社会的事象について疑問を感じたり、課題を意識して考えたりしながら学習する意欲をもちにくいのではないかと考えた。
- ・ 児童が学習を通して獲得し蓄積した知識を基にして、社会的事象と自分とのかかわりに関して深く考えたり、判断したりする学習場面が少ないのではないかと考えた。

これらの点から、児童が資料から事実を適切に読み取り、分かった事実から課題意識をもち自ら追究していくことができるような、児童の興味・関心を引き出す教材の工夫と効果的な提示が必要であると考えた。また、様々な形態の話し合い活動を段階的に取り入れることで、児童が社会的事象を自分に引き寄せて自らの考えを深めることができるのではないかと考えた。

以上の点から、児童の学習に対する意欲を高め、児童が自ら蓄積した知識を基にして、社会生活と自分とのかかわりを考える力を育成するための学習指導の工夫を研究のねらいとした。

II 研究の内容と方法

1 研究の仮説

研究主題に迫るために次のような仮説を設定し、2点について学習指導を工夫した。

児童が主体的に学び、考えを深めるための教材を工夫し、話し合い活動を有効に活用すれば、社会生活と自分とのかかわりを考える力を身に付けることができるようになるだろう。

仮説に迫るために、以下の2点を手だてとする。

- ・ 児童の興味・関心を引き出し、学ぶ意欲を高める教材分析と効果的な提示の工夫
- ・ 児童が自ら学び蓄積した知識を生かして、他者と考えを交流し、再度自らの考えを吟味することができる話し合い活動の工夫

2 基礎研究

(1) 文献研究・先行研究

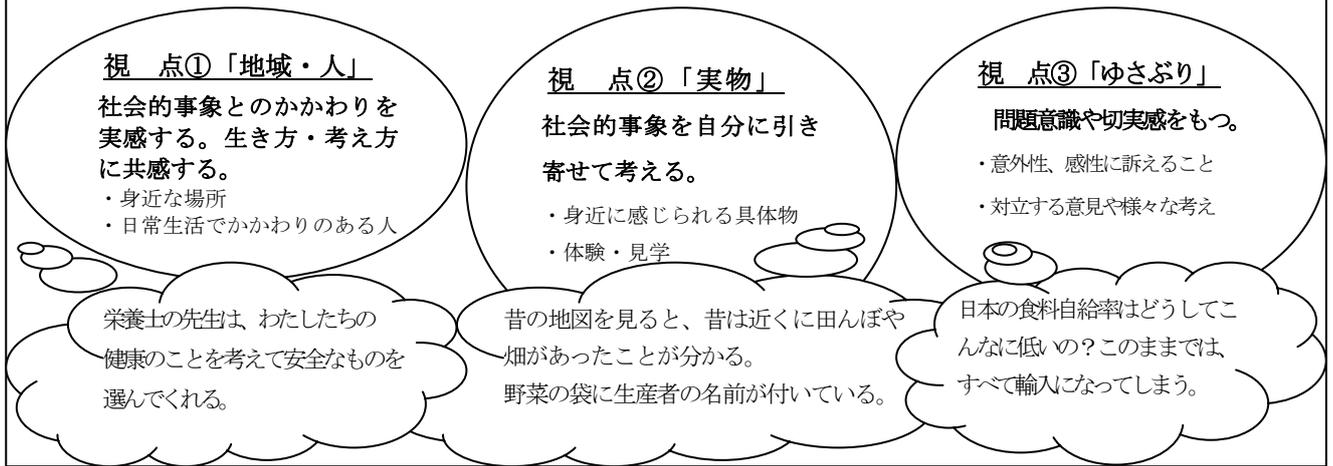
基礎研究については、国立教育政策研究所や東京都教育委員会の報告書・先行研究を参考にして、意識調査や教材開発、学習過程、発問等に関する分析を行った。

(2) 教材の視点について

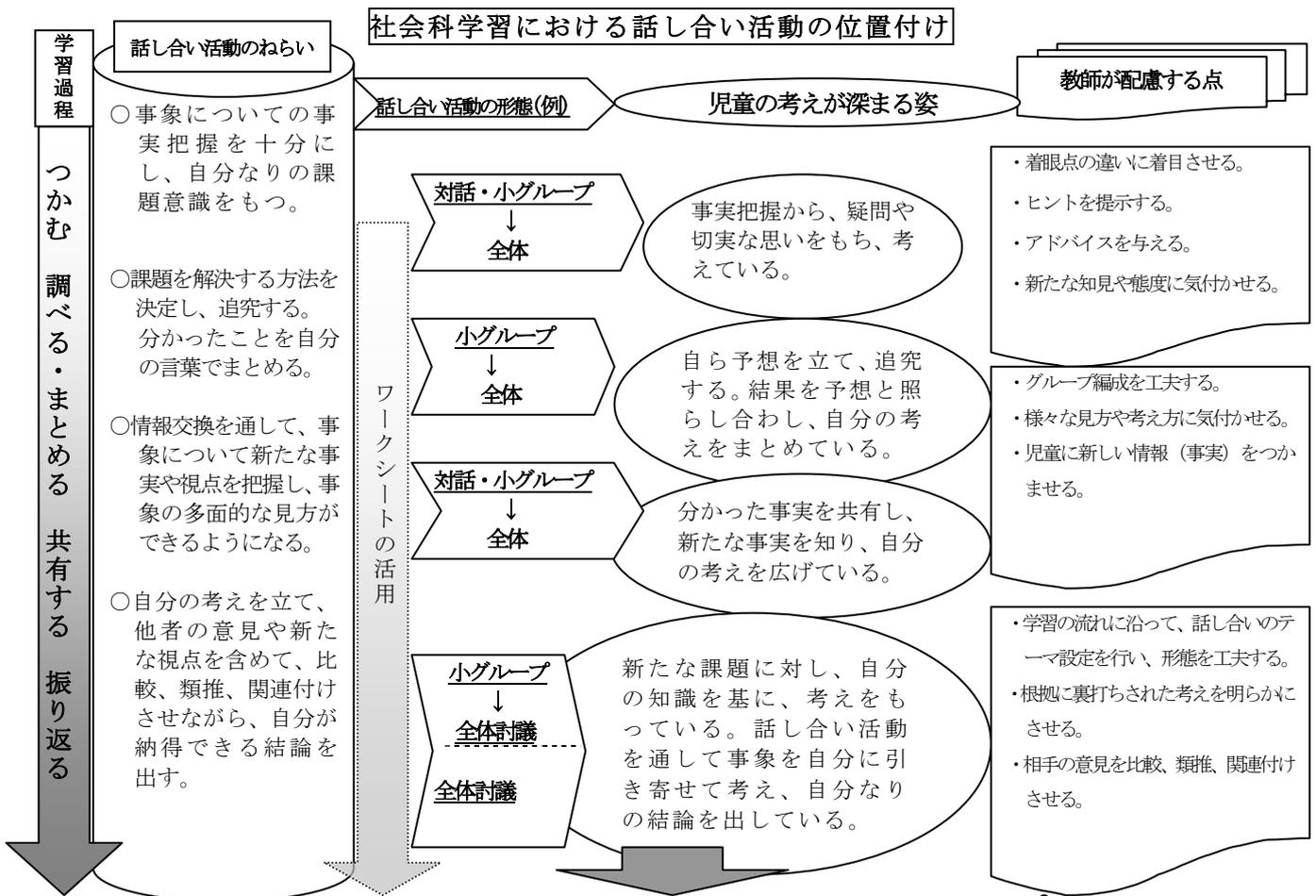
児童の興味・関心を引き出し、学ぶ意欲を高める教材の3つの視点を構想した。

「児童の意欲を高め、社会生活と自分とのかかわりを考える力を
育成する学習指導の工夫—自分の考えを深める話し合い活動を通して—」

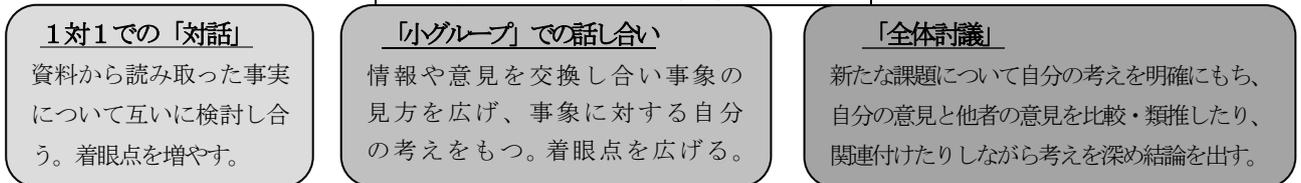
【児童の興味・関心を引き出し、学ぶ意欲を高める教材の3つの視点】（補助資料①参照）



(3) 社会生活と自分とのかかわりについて考えを深める話し合い活動について
(補助資料②③参照)



話し合い活動の形態(例)とねらい



3 検証授業

第5学年の3学級で、小单元名「これからの食料生産とわたしたち」(全7時間)の授業を行った。

(1) 教材の分析・提示の工夫

栄養士のお話を「地域・人」の資料として活用した。食べ物の安全性などに気を付けて努力している姿に共感させ、学習への興味・関心を引き付けた。給食の中に輸入された食材があることに気付かせ、次時の学習問題づくりの際に課題意識をもたせたるようにした。

(2) 話し合い活動の場の設定

学習過程の中で、我が国の食料生産の現状と自分とのかかわりについて考えを深めるために、1対1の対話や小グループでの話し合い、全体討議など様々な形態の話し合い活動を取り入れた。

(3) ワークシートの工夫（補助資料①参照）

授業の終末に「学習振り返りシート」を活用し、一人一人の児童に食料生産に対する自分の考えを明らかにさせた。学びの積み重ねを通して児童の考えの変容を見取った。

Ⅲ 研究の結果と考察

1 児童の学びの姿から

栄養士のお話や食料自給率のグラフを基に、我が国の食料生産の現状を自分に引き寄せて考えを深めていく児童の姿に焦点を当て、授業観察（観）やノート（ノ）、ワークシート（ワ）の分析をした。

学習過程	学習活動 話し合い活動	児童の学びの様子（・は児童の考えが深まる姿。） ア～ウは、我が国の食料自給についての児童の考え ア 安心だと感じた。イ 安心と心配の両方を感じた。ウ 心配だと感じた。 ○は安心だと思う理由。▼は心配だと思う理由。 ア～ウの順序は、学習の中で判断した児童数の多い順	◇ 児童の学びの分析 (□は観察の様子から分析)
つかむ	給食の献立に着目し、栄養士のお話から身の回りにある食べ物の現状について把握する。 自分が把握した事実を互いに確認し合う。	・給食はみんなが食べる物だから、私は栄養士の先生が安全性などに気を付けていると思った。(ノ) ・安全な証明書の付いた輸入大豆を使っている。なぜ、外国から仕入れるのか。(ノ) ・安全で旬のものを選んでくれている。(ノ) ア○栄養士の先生が安全なものを選んでくれる。安全の証明書が付いているから安心できる。(ワ) イ▼輸入された食料が安全というが、牛が病気になる危険なものが見つかったことがあった。(ワ) ウ▼いつかすべての食べ物が入り込んでしまうのではないかと。(ワ)	◇栄養士のお話から、食料の安全性についての関心が高まってきている。 ◇栄養士が自分達のために安全な食材を選ぶ姿に共感し、信頼している。 ◇輸入された食料の安全性について興味・関心をもっている。証明書が付いているから安心だと考える児童と、輸入された食料がすべて安全なのかどうか疑問をもっている児童も見られる。また、日本の食料生産について不安をもっている児童も見られる。
調べる・まとめる	食料自給率のグラフを読み取り我が国の食料生産の現状を知り学習問題をつくる。 把握した事実を意見交換し、共通の課題意識をもつ。	・日本の食料自給率が、とても低いことに驚いた。(ノ) ・日本は、魚など外国からの輸入に頼っている。このままでは、生産量がゼロになってしまう。(ノ) ・国内で生産しなくなり、生産者の数が減り、田畑がなくなってしまうのではないかと。(ノ) ウ▼国内で食料を作らなくなったら日本が危険なことになる。とても不安だ。(ワ) イ▼このままだと、日本の食料は輸入品だらけになってしまう。輸入禁止になったら心配。(ワ) ア○米は95パーセント日本産なのでまだ安心。(ワ)	◇意外性のある資料に出会い、既習の知識を基に予想したことが違うことに気付き、課題意識をもち始めている。 ◇食料自給率のグラフから輸入に頼っている現状を把握し、児童が切実な問題として考えている。
共有する	調べる方法を考え、必要な資料を用いて調べる。 同じ予想を立てた者同士が情報交換しながら追究する。 分かった事実をまとめる。	・食生活がパンや肉など外国のようになってきたから、輸入が多いのかもしれない。(ノ) ・米の学習でも生産者の数が減ってきていた。このまま減ると後継ぎがいなくなってしまう。(ノ) ア○生産者が工夫を重ね安心・安全を考えていることが分かった。(ワ) イ▼輸入品は日本に運ぶ時、農薬などを使っている。(ワ) ウ▼主食といえるものも輸入している。(ワ)	◇既習の知識を関連付けて予想を立てている。 □課題意識をもって必要な資料を選び、まとめた。同じ課題を追究している児童が情報交換しながら、まとめた。(観) ◇追究してある一つの事実が分かり、食料生産に対する見方・考え方が広がっている。
	調べ学習で新たに把握した事実を情報交換し、食料生産にかかわる様々な事実を知る。	・日本は食料の輸入量が多いが、生産者数が年々減っていることが分かった。輸入を減らすためにも生産者を増やしていかなければならないと思った。(ノ) ア○少し安心したけれど、自給率を上げることは自分たちにかかっている。(ワ) イ▼日本の生産者は努力しているが、まだ輸入が多い。(ワ) ウ▼このままでは日本は外国産の食べ物が増えてしまう。(ワ)	□自分が調べて分かったことが他者の調べた結果と結び付いていることに気付き、事象を多面的にとらえていた。(観) ◇情報交換を通して新しい事実が分かり、事実を関連付けながら、食料に対する新たな危機感をもっている。

「児童の意欲を高め、社会生活と自分とのかかわりを考える力を育成する学習指導の工夫—自分の考えを深める話し合い活動を通して—」

<p>振り返る (児童の考えが深まった姿)</p>	<p>今までの学習を基に、「未来の食料生産・アップ計画」を立てる。</p> <p>小集団に分かれて提案する。その中で実現可能なものについて全体で話し合う。他者の意見を自分の考えと比較したり、類推したりして自分の結論を出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生産者を増やすキャンペーンをする。そうすれば、若い人も農業に関心を向けるようになるだろう。(ワ) 国産の食べ物を買う。そうすれば、農家の人が国産の食べ物をたくさん作ろうとするだろう。(ワ) 三食のうち、一回は御飯を食べる。そうすれば、国産の食べ物をもっと消費されるだろう。(ワ) 日本はたくさん輸入しているが、日本でとれない物もあるから仕方がないと思う。どの提案にも少しずつ欠点があると思う。今どきのようなことをすればよいか分からないが、ぼくが大人になるころにはよい方法が見つかるように考えていきたい。(ワ) 食べ物が輸入されなかったら、とても困る。自給自足の生活を試してみれば、食べ物を作る大変さがかかると思う。そうすれば、食べ物の大変さを知り、生産者の数も増えるのではないだろうか。学校やビルの屋上で栽培すれば、環境にもやさしいと思う。(ワ) <p>ア〇自分たちでできることからやればいい。(ワ)</p>	<p>◇自分の考えをもち、すすんで全体討議に参加している。話し合い活動を通して、相手の意見に付け加えたり、反論したりして自分の考えを深めている。(観)</p> <p>□事実を根拠立てて発言している。相手の意見を受けて反論し、自分の考えを発言している。(観)</p> <p>◇自分の考えたことと他者の意見とは関連付けられていることに気づき、これからの食料生産について自分に引き寄せて考えている。(観)</p>
--------------------------------------	--	--	---

2 検証の考察

(1) 教材の視点と提示の工夫について

栄養士の話から、児童は栄養士が安全な食べ物を選んでいる努力に気づき、食べ物の生産地や輸入について興味・関心を引き出すことができた。また、食料自給率のグラフから、我が国の食料生産の課題を把握し、日本の食料自給率を上げたいという願いをもつことで、生産者の数を増やしたらいいと発言する児童の切実な思いとなり、主体的な課題追究につながった。

(2) 話し合い活動の場の設定について

学習のまとめで「未来の食料生産・アップ計画」というテーマを設定して全体で話し合った。話し合いの後、給食時に残さず食べるよう心掛け、食べ物を大事にするようになった児童や、自分の食生活を振り返る児童の姿が見られた。全体討議は、児童がこれからの食料生産と自分の生活とのかかわりについて考えを深めるのに有効であった。

(3) ワークシートの活用について

学習振り返りシートを活用し、授業の終末に食料生産に対する安心感を数値化させ、調べたり、学んだりして分かった事実を根拠としてその理由を明記させた。そのシートを用いて情報交換をしたり前時の自分の考えを振り返ったりしながら、児童は自分の考えを吟味し、考えを深めることができた。学習振り返りシートは、児童が学習を基に蓄積した知識を根拠に自分の考えを明らかにし、話し合い活動を通して事象を自分に引き寄せて考えるのに効果的であった。

3 学習指導計画について (補助資料④参照)

学習指導案作成の際、学習指導計画の中に児童の考えの変容を見取る場面、段階ごとの話し合い活動の形態、使用する資料を示した。

児童が追究して考えを深めていく学習活動と、児童の考えの変容を把握する場面を明らかにする。

一単位時間の学習のねらいを明確にし、話し合い活動を効果的に取り入れる。

三つの教材の視点を明示し、学習活動の中で効果的に資料を提示する。

時	ねらい	学習活動	学習形態	資料・支援	評価 (Cは指導の手立て)
1	給食の食材は安全性や国内の実態を考えて選んでいることを知る。	①2校の「給食通信」を見て気づいたことについて話し合う(座席・毎週) ②産地を地図帳で確かめる。 ③栄養士の先生の話を知る。(安全性・産地の実態) 【これからの食料生産】学習振り返りシート①1時間目	話し合い 全体	①2校の「給食通信」 ②日本の白地図・地図帳 ③栄養士の話 ④安全性や国内の実態を考えて選んでいることに気付かせる。	B C 【発】発言【ワ】ワークシート【観】観察【ノ】ノート 【発】学校の給食で栄養士が工夫や努力していることを話の中から聞き取り、気付いている。 【観・ワ・ノ】 学校給食では、栄養士が安全で新鮮な材料を使っていることを助産し、気付かせる。
2	食料生産の自給率グラフなどから、我が国の食料生産の現状を知り、問題を予想する。	④食料自給率のグラフと「自給率の割合」を見て、日本の食料自給率を確かめ、我が国の食料生産の現状について感じたことについて話し合い学習問題をつくる。 ⑤環境を大切に、消費者や生産者を守るこれからの食料生産は、どのように進めようか考えてみる。 ⑥我が国の食料生産がどのようになっているか予想する。 【これからの食料生産】学習振り返りシート②2時間目	話し合い 生グループ Z 全体 個人	④食料自給率グラフ・自給率の割合 ⑤身近な表示から我が国の食料生産が安全性や環境にも配慮していることに気付かせる。 ⑥野菜の表示	B C 【発】提示された資料を比較し検討して、日本の食料生産の現状や、食料生産においては、自給率の低さが問題になることに気付く、予想を立てようとしている。【発・ワ・ノ】 提示された資料の読み取り方を指導し、日本の食料生産の現状に関心をもち、自給率の低さとはどのようなことなのかを気付かせ、予想を立てさせる。

IV 今後の課題

1 教材について

- 常に広い視野をもち、身近な素材を見付け、児童が実感できるよう教材化する。
- 地域に似たような素材や事象があれば活用し、より身近な視点から事実を把握させる。

2 話し合い活動について

- 小グループでの話し合い活動で、児童に事象についての事実を十分把握させてから、自分の考えをもたせる。

3 ワークシート(学習振り返りシート)について

- 教師の評価だけでなく、児童自身で考えの深まりが自己評価できるシートを工夫する。

補助資料1 児童の興味・関心を引き出し、学ぶ意欲を高める教材の3つの視点

「地域・人」…身近なもの・日常生活や家族など

地域学習を中心とした中学年から、高学年は国土や産業、歴史や国、国際社会の役割など学習範囲が広がる。教科書の内容とは直接結び付かないが、身の回りの「地域」にも同じような事象や事例が見られることがある。このような地域の素材を基に学習問題に迫ることもできると考えた。



また、社会には様々な立場や役割をもった「人」がいる。効果的に「人」を登場させ児童がその人の生き方や思い・願いに触れることを通して、共感し、自分と社会的な事象とのかかわりを実感できるのではないかと考えた。

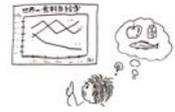
「実物」…身近に感じることができる具体物

社会的な事象によっては、身近にとらえにくいものがある。そこで具体物を例示することで、児童がより身近に感じ社会的な事象を自分に引き寄せて考えることができるのではないかと考えた。教材によっては、見学や体験を通して身近に感じることでもできると考えた。



「ゆさぶり」…意外性、感性に訴えること

児童の考えを揺さぶるような教材や発問を投げ掛け、児童に問題意識や切実感をもたせれば、児童が矛盾や葛藤状況を多面的に分析して判断したり、行動したりすることができるようになると考えた。



補助資料2 学習振り返りシート「これからの食料生産とわたしたち」

「これからの食料生産とわたしたち」学習振り返りシート① 5年 組 ()

◇ 学習を振り返り、これからの食料生産について書きましょう。

食料生産に対する安心度数
児童が安心(大丈夫)と答えたとき、御飯3つに○を付ける。
少し心配のときは2つ、心配なときは1つに○を付ける。

6月21日(水) 1時間目

食料生産について今の考えは?○を付けよう。(例:○3つ・だいじょうぶ、○1つ・心配) 自分の意見(理由)を書こう。

学習活動

栄養士の話
を聞く。

給食の食材がどこで
つくられたのか、
いつでも分かるように
リストに書いてある。

給食で食べている米は
農薬を使わない安全な
米かどうか、心配だから。

学習段階で食料生産に対して安心と
考えた理由を記述する。

↑御飯2つ又は1つに○を付けたときは、どちらの項目にも理由を書く。↑

食料自給率の
グラフを読み
取る。
学習問題を
つくる。

まだ日本で生産している
食料もあるから。

輸入される食料が増え
ると、心配になる。
日本の食料自給率も
減ってしまう。

学習段階で食料生産に対して心配だ
と考えた理由を記述する。

7月 5日(水) 5時間目

食料生産について今の考えは?○を付けよう。 自分の意見(理由)を書こう。

調べ学習で分
かったことを
意見交換して
事象について
の知識を広げ
る。

輸入が止まっても
大丈夫な政策があるから
安心できた。

学習段階で食料生産に対して心配だ
と考えた理由を記述する。

補助資料3 社会科学習における学習過程と話し合い活動のポイント一覧表

学習過程	話し合い活動のねらい	◎形態	○児童の考えが深まる姿	◇配慮する点 ☆話し合い活動の参加に配慮を要する児童への支援
つかむ (事実把握・課題設定・追究)	個々の学習課題に対する着眼点を明らかにする。 驚きや疑問が出た時に、対話を行い、検討し合う。その後全体で話し合い、学級全体の課題を設定する。	◎対話 二人一組になって資料を見て感じたことを意見交換する。	○一つの事象に対して一つの着眼点からとらえ、考えている。 (断片的な知識) 「…だ。」 ○教材から切実感をもつ課題に出会い、解決のために自ら予想を立てている。 (知識獲得に向けての追究) 「なぜ、どうして、どうしたら」 「…だからではないか。」	◇互いの着眼点の違いに目を向けさせる。 ◇友達の発言の内容や態度などよい点に気付かせる。 ☆自分の考えと相手の意見の相違点に気付かせる。
	同じ予想を立てた者同士で課題を確認し、各自が調べる計画を立てる。 着眼点の違う他者の意見を聞き、多面的な見方に気付く。	◎小グループの話し合い 小グループになり討論する。課題について互いに意見を交わし、論じ合う。	○予想した事象について追究し、まとめている。 (新たな知識の獲得) 「…だ。だから、○○である。」	◇グループ編成を工夫する。 話し合いの核になる児童がすべてのグループに入るよう配慮する。 ☆グループの友達の意見と自分の考えを比較させるなど、教師が支援する。
調べる・まとめる・共有する (新たな事実把握)	違う予想を立てた者同士が小グループになり、情報交換をし、事象に対する着眼点を広げる。 着眼点の違いが広がることで物の見方・考え方が多面的になる。 一つの事象から明らかになった事実を比較したり、結び付けたりして総合的にとらえる。	調べ学習は個人、随時同じ課題を追究している者同士で情報交換をする。 ◎小グループの話し合い	○調べて分かったことを意見交換し、新たな事実を把握している。 (知識を広げる) ○様々な事実と事実のつながりをとらえ、概念的な知識として理解している。(比較、類推、関連) 「…だけでなく、△△とつながっているんだ。」	◇調べ学習を通して情報交換を随時取り入れ、事象に対する様々な見方・考え方に気付かせる。 ◇グループの編成は、児童の実態や個々の学習の理解状況などを考慮する。 ☆話し合い活動を通して、新たに分かった事実と自分が調べて分かった事実を比較させたり、似ている点に注目したりさせて、事象をとらえさせる。

<p>振り返る（意思決定・価値判断）</p> <p>学習で明らかになった新たな課題について、自己の意見を明確にし、みんなの前で自由に述べ合い、意見を交わし、解決の方向を求める。</p> <p>学習して蓄積された知識を根拠に、課題についての自分の考えをもつ。</p> <p>話し合い活動を通して、他者の意見を自分の考えと比較したり、類推したり、関連付けたりして振り返り、社会的事象と自分とのかかわりを考え、結論を出す。</p>	<p>■課題（テーマ）設定</p> <p>■事象の中から浮き彫りになった対立点や、二者のどちらかを選ぶような課題（テーマ）を設定する。</p>	<p>形態（全体討議）</p> <p>① ディベート的（二者対立的）な討論</p> <p>↓</p> <p>個人の考え</p>	<p>○児童の考えが深まる姿</p> <p>○対立点が明確な事象について、事実を根拠にして、反論したり、付け加えたりすることを通して、自分の考えを明らかにしている。</p> <p>○話し合い活動を通して自分の考えを他者の意見と比較、類推させながら自分なりの結論を出している。 「…であるから、○○だ。だから、私は～しようと思う。」</p>	<p>◇意思決定を迫るような場合は、子ども自身の選択を尊重する。</p> <p>☆どちらの立場で考えるか明確にさせ、学習した事実を根拠に考えをもたせる。</p> <p>☆教師が反対の立場から意見を述べるなどして揺さぶりをかけ、自分の考えを明らかにさせる。</p>
	<p>■これからの社会生活の改善点や計画を立てて提案するような課題（テーマ）を設定する。</p>	<p>② ブレインストーミング</p> <p>小グループで一つのテーマについて、意見を出し合う。</p> <p>↓</p> <p>全体討議</p> <p>↓</p> <p>個人の考え</p>	<p>○内容のしぼり込みをすることにより、自分の考えが明確になっている。 《例》優先順位を付ける 実現可能なプランを考える</p> <p>○話し合い活動を通して事象を自分に引き寄せて考え、自分の結論を出している。</p>	<p>◇自由に意見を出し合う。相手の意見を否定しない。</p> <p>◇根拠に基づいた意見が出ないこともあるので、話し合い活動の際、常に課題に立ち返らせる。</p> <p>☆テーマに沿った意見を自由に出させる。</p>
	<p>■ある事象（歴史的な事象等）に対して多面的な見方・考え方ができるような課題（テーマ）を設定する。</p>	<p>③ ロールプレイング</p> <p>共通の基盤となるテーマに沿って、特定の人物の立場になりきって意見交換を行い、話し合う。</p> <p>↓</p> <p>全体討議</p> <p>↓</p> <p>個人の考え</p>	<p>○特定の人物の立場からある事象を考え、具体的に事象を見ることができたり、様々な考えに触れたりして、事象を多面的にとらえ、見方・考え方が深まっている。</p> <p>○対立する意見や自分とは違う視点で述べた意見などを関連付けながら、自分の結論を出している。</p>	<p>◇役割は交代しない方が見方・考え方は深まる。</p> <p>☆自分が心を寄せた一人の人物を追い、見方・考え方を深めさせる。</p>

補助資料4 学習指導計画（全7時間 本時7／7時）

	時	ねらい	学 習 活 動		学習形態 話し合い	◇ 資 料 ・ 支 援		評 価 (Cは指導の手だて)	
			学習問題	自分とのかかわりを考えるための課題		地・人	地域・人	実物	ゆさぶり
つかむ	1	給食の食材は安全性や国内の実態を考えて選んでいることを知る。	①2枚の「給食通信」を見て気付いたことについて話し合う。 (産地・旬) ②産地を地図帳で確かめる。 ③栄養士のお話を聞く。(安全性・産地の実態) 「これからの食料生産」学習振り返りシート①1時間目	④食料自給率のグラフと「自給率の割合」を見て、日本の食料自給率を確かめ、我が国の食料生産の現状について話し合い学習問題をつくる。 環境を大切に、消費者や生産者を守るこれからの食料生産は、どのように進めていったらよいのだろう。 ⑤我が国の食料生産がどのようになっているか予想する。 「これからの食料生産」学習振り返りシート②2時間目	対話 全体 個人	◇2枚の「給食通信」 実 ◇日本の白地図・地図帳 実 ◇栄養士のお話 地・人 ・安全性や国内の実態を考えて選んでいることに気付かせる。	B C	(関) 学校の給食で栄養士が工夫や努力していることを話の中から聞き取り、気付いている。 【観・ワ・ノ】 学校給食では、栄養士が安全で新鮮な材料を使っていることを助言し、気付かせる。	
	2	食料生産の自給率グラフなどから、我が国の食料生産の現状を知り、問題を予想する。	⑥食料を生産する人々や、産地の努力・工夫について、予想を基に調べる計画を立てる。 ⑦食料生産にかかわる問題について調べ、食料生産に携わる人々の努力について知る。 ⑧調べて分かったことをまとめる。	④食料自給率のグラフと「自給率の割合」を見て、日本の食料自給率を確かめ、我が国の食料生産の現状について話し合い学習問題をつくる。 環境を大切に、消費者や生産者を守るこれからの食料生産は、どのように進めていったらよいのだろう。 ⑤我が国の食料生産がどのようになっているか予想する。 「これからの食料生産」学習振り返りシート②2時間目	対話 小グループ 全体 個人	◇食料自給率グラフ・自給の割合 図 ・自給率のグラフを見て、疑問に感じたことを発表させ、問題意識を高めて学習問題づくりに生かす。 ◇野菜の表示 実 ・身近な表示から我が国の食料生産が安全性や環境にも配慮していることに気付かせる。	B C	(思) 提示された資料を比較し検討して、日本の食料生産の現状や、食料生産においては、自給率の低さが問題になることに気づき、予想を立てようとしている。【発・ワ・ノ】 提示された資料の読み取り方を指導し、日本の食料生産の現状に関心をもたせ、自給率の低さとはどういうことなのかを気付かせ、予想を立てさせる。	
調べる・まとめる・共有する	3	各自が予想したことを調べる計画を立て、食料生産に携わる人々の努力や工夫について調べ理解する。	⑥食料を生産する人々や、産地の努力・工夫について、予想を基に調べる計画を立てる。 ⑦食料生産にかかわる問題について調べ、食料生産に携わる人々の努力について知る。 ⑧調べて分かったことをまとめる。	④食料自給率のグラフと「自給率の割合」を見て、日本の食料自給率を確かめ、我が国の食料生産の現状について話し合い学習問題をつくる。 環境を大切に、消費者や生産者を守るこれからの食料生産は、どのように進めていったらよいのだろう。 ⑤我が国の食料生産がどのようになっているか予想する。 「これからの食料生産」学習振り返りシート②2時間目	個人 小グループ 全体 個人	◇教科書・資料集・地図帳 実 ◇食料生産の改善に向けて取り組んでいることが分かる資料 地・人 ・食料生産に携わる人々の努力が分かるような資料を用意し児童の実態に応じて提示する。	B C	(技) 食料生産にかかわる問題について調べ、食料生産に携わる人々の努力に気づき、まとめる。 【発・観・ワ・ノ】 資料の中で誰が、どのようなことを努力してきたのかを助言し、まとめさせる。	
	4	調べたことを発表し、食料生産に携わる人々の努力を理解する。	⑥食料を生産する人々や、産地の努力・工夫について、予想を基に調べる計画を立てる。 ⑦食料生産にかかわる問題について調べ、食料生産に携わる人々の努力について知る。 ⑧調べて分かったことをまとめる。	④食料自給率のグラフと「自給率の割合」を見て、日本の食料自給率を確かめ、我が国の食料生産の現状について話し合い学習問題をつくる。 環境を大切に、消費者や生産者を守るこれからの食料生産は、どのように進めていったらよいのだろう。 ⑤我が国の食料生産がどのようになっているか予想する。 「これからの食料生産」学習振り返りシート②2時間目	対話 小グループ 全体 個人	◇自分や友達がまとめたシート 地・人 ・食料生産に携わる人々が努力していることに気付かせる。	B C	(知) 食料生産にかかわる様々な問題を知り、それらに携わる人々が改善を目指して努力や工夫していることを理解しようとしている。【発・観・ワ・ノ】 友達が調べたことを基に食料生産の改善を目指して人々が努力していることを助言する。	
振り返る	6	これからの食料生産について自分の考えをまとめる。	⑥食料を生産する人々や、産地の努力・工夫について、予想を基に調べる計画を立てる。 ⑦食料生産にかかわる問題について調べ、食料生産に携わる人々の努力について知る。 ⑧調べて分かったことをまとめる。	④食料自給率のグラフと「自給率の割合」を見て、日本の食料自給率を確かめ、我が国の食料生産の現状について話し合い学習問題をつくる。 環境を大切に、消費者や生産者を守るこれからの食料生産は、どのように進めていったらよいのだろう。 ⑤我が国の食料生産がどのようになっているか予想する。 「これからの食料生産」学習振り返りシート②2時間目	小グループ 個人	◇新たな食料自給率目標：平成27年までに45% 図 ・消費者としての考えだけでなく、生産者の立場でも考えさせる。	B C	(思) 学習して獲得した意識を基に、これからの食料生産について自分の考えをまとめている。 【発・観・ワ】 調べたことや情報交換をして分かったことを振り返るよう助言し、自分の考えをまとめさせる。	
	7 (本時)	これからの食料生産について話し合い、未来の社会生活について考える。	⑥食料を生産する人々や、産地の努力・工夫について、予想を基に調べる計画を立てる。 ⑦食料生産にかかわる問題について調べ、食料生産に携わる人々の努力について知る。 ⑧調べて分かったことをまとめる。	④食料自給率のグラフと「自給率の割合」を見て、日本の食料自給率を確かめ、我が国の食料生産の現状について話し合い学習問題をつくる。 環境を大切に、消費者や生産者を守るこれからの食料生産は、どのように進めていったらよいのだろう。 ⑤我が国の食料生産がどのようになっているか予想する。 「これからの食料生産」学習振り返りシート②2時間目	全体 個人	・話し合うときは、理由を付けて発表させる。「ぼく(わたし)は、○○だと思う。なぜなら、～だから。」 ・様々な人々が我が国の食料生産に対して、願いや思いをもっていることを知り、自分がこれからどのようにかわるかを考えさせる。	B C	(思) これからの食料生産について自分の考えをもち、友達や生産者の話を聞いて未来の生活に向けてどのようなことをしたらよいか考えようとしている。【発・観・ワ】 友達や生産者の話を聞いて、自分がこれからどのようなことをしたらよいか、助言し、考えさせる。	